

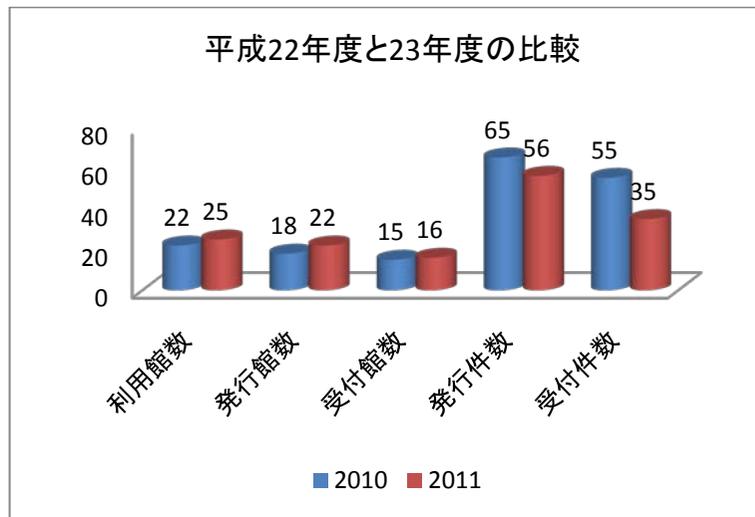
## 平成23年度 SALA共通閲覧証利用調査結果報告

2012/5/29総会資料

1. 調査期間：平成24年3月26日～平成24年4月16日
2. 調査対象期間：平成23年4月1日～平成24年3月31日
3. 調査項目：発行件数、受付件数、ご意見
4. 定義  
発行件数とは、他の加盟館を紹介する時に共通閲覧証を渡した件数をいう。  
受付件数とは、他の加盟館から共通閲覧証を持参して来館した件数をいう。
5. 調査方法：①代表幹事館よりSALAメーリングリストで文書配布 → ②個別メール、電話、FAXで問い合わせ
6. 回収方法：①メール添付又はFAX受信→ ②電話
7. 調査集約担当：城西大学水田記念図書館
8. 調査結果

回答館数	49	100%
利用館数	25	51.0%
発行館数	22	44.9%
受付館数	16	32.7%
発行件数	56	
受付件数	35	

(注)同一機関で複数キャンパスがある場合、別々にカウントした。



<ご意見>

- ・ SALA加盟館の連携を促す良い制度だと思います。図書館を訪問利用できる制度は学生への利用者支援に大変役立ちます。
- ・ 小さな短大図書館では、共通閲覧証があるととても助かります。
- ・ 当センターは、入館及び閲覧はどなたでも自由に行うことができるため、共通閲覧証の提示を求めています。そのため受付件数は0ですが、平成23年4月1日～24年3月31日までの利用者数のうち学生423名、研究者57名に利用されています。
- ・ 本学は紹介状の発行自体が少ないため、共通閲覧証の利用も少ない。しかし、共通閲覧証自体の存在価値がないわけではなく、実際に利用者があった際には、紹介状を発行しないで済むため、効率的だと思う。
- ・ 本学においては、今のところ特に必要性を感じておりません。
- ・ もう少し、PRに力を入れたいと思います。
- ・ とてもよい制度で、小規模図書館にとってはありがたいです。今年度は0件でしたが、来年度以降活用したいと思います。
- ・ 共通閲覧証での利用の他に、他大学より477人が入館しています。
- ・ 今後も続けていただければと思います。
- ・ 制度があること自体には意味があると思いますが、発行・受付ともに需要がないのが現状です。もっとも、自館利用者に対し、自館利用を促進していくことの方が優先課題だったりもしますので…。

- ・ 学外者に対して、本学用のICカード(施設利用証)を発行していますので、共通閲覧証の必要はありません。また、本学学生がSALA加盟図書館を利用することは皆無と思われます。
  - ・ 利用促進のためポスターによる広報を行いました。その後利用者からの問い合わせが増えたことから、H24年度も引き続き広報等を行います。
  - ・ 一般公開(高等教育機関在籍以上)しているため、実際にはもっと多いと思われます。\*他大学在籍者の抽出は困難な状況です。
  - ・ 共通閲覧証は大変便利だと思います。今後、利用者への周知を徹底し、さらに活用されるよう努めます。
- 発行件数内訳は2件、但し、A大学と特別提携により「大学院学生証・教職員身分証明証」のみで利用させていただくこともあり、窓口対応したスタッフによって共通閲覧証を渡しておらず、記録と実態が伴っていない可能性があります。受付件数内訳は、1件、但し、A大学と特別提携相互利用8件、B大学の共通閲覧証持参忘れ2件を含んでいません。
- ・ ここ数年利用が無い状況です。原因は、保育学科は時間的余裕が無いことと学内で必要資料が揃うこと、キャリアコミュニケーション学科は卒論が多くインターネット利用が多いことかと思われます。編入学生が多い時は単位互換制度の利用が多く、他館利用もありましたので、ぜひ今後も制度が続いてほしいと思います。
  - ・ SALA共通閲覧証でできるサービスの一覧に「事前相談:不要」とある場合、FAX等事前照会なしで即日利用できるのもとても助かった。
  - ・ 今後ともよろしく申し上げます。